２０２６（令和８）年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和８年７月１３日（月）午後２時００分～
●会　場　城山会館
●参加者　６人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕
（１）釧路市の財政状況及び事務事業見直しの今後の取り組みについて
（２）釧路短期大学の公立化について
（３）北陽高校移転の検討について
（４）令和８年度の市の取り組みについて

●意見交換

【参加者Ａ】
　事務事業の見直しの件について、広く使われている会館等の使用料について、プラザさいわいを利用しています。サークル団体登録をしているので、会場費の半額で貸してもらっています。会場費については、私たちも今すごく心配しています。今後も半額で貸していただけるのでしょうか。

【財政部長】
　施設の管理者が現在、どの程度の維持コスト支払っているのかの割合を出し、それを基に最大１．５倍までを上限として見直しをおこないます。
　この見直しにあたりましては、基本的に現在の料金表の最大１．５倍に上がるイメージです。
　減免等の制度については、継続することを基本に考えております

【参加者Ａ】
　基本料金１．５倍を頭打ちにして上がるという考えでよいでしょうか。
　減免を受けている者は、その内の半額を支払う理解でよろしいでしょうか。

【財政部長】
　今はそのように検討しております。

【参加者Ｂ】
　市の職員が沢山辞めている現状について、市長としての思いをお聞かせください。

【市長】
　大変重く受け止めております。
　今、人材がすごく大切な時代になりました。全国的な人手不足もあり、市役所職員は優秀なので、引く手あまたな状況です。国家公務員や北海道職員、他の市役所職員になる職員もおります。
　そのような中で、市役所の未来を造っていくために、市役所自体の働き方改革を今、必死に目標を掲げながら進めさせていただいております。
　国もブラックと言われますが、市役所もブラックです。例えば災害の警報が出た場合、災害警戒本部等が立ち上がります。その度に、職員の皆さんは施設の巡回等の義務がでてきます。そのような心の備えをしているため、普段から心がピリピリしていることもあります。
　議会の期間になると、準備などがあり凄く夜遅くまで勤務しています。前は日をまたぐこともありましたが、皆の協力で抑えていこう、改善していこう、休暇取得をするのも申し訳ない感じでしたが、堂々と取得できる形。
　男性の育休も推奨し、皆で子育て環境をフォローしあいましょうというような職場環境にしております。
　それが東京などは普通なので、そのようにしていかなければ職員が流れていく一方なので、そのような取り組みを昨年から始めたところです。更なる改善に向け、皆と努力していきます。

【参加者Ａ】
　事務事業の見直しについて、１乗車１００円でお出かけできる、おでかけパスポートは非常に皆さん喜んでおります。金額については値上げになったとしても、制度は存続していただきたい。

【市長】
　思いはよくわかります。７０歳以上の方が家から出るという目的は確かにありますので、しっかり守っていきたいと思っております。
　現在、市が約１億円程度負担していますが、１０月にバス運賃自体が値上がり更に市の負担額があがりますので、その辺の兼ね合いと考えています。
　市として、しっかりと負担しながら制度を維持していきたいと思っています。
　その中で、検討させていただきます。

【参加者Ｂ】
　短期大学の件については大変英断なさってくださり、このような場を残して

いただき、うれしく、すばらしいなと思っております。
　道東地域で栄養士等もありますが幼児教育に携わる、人間を育てる場を失わなかったことは大変すばらしいことと思うと同時に、保育士や介護に関わるスタッフ等を養成するところも、道東ではくしろせんもん学校のみとなってしまいました。
　短大と専門学校の違いはありますが、子ども達に専門教育を施して、そういう人材を養成するという点、地元にある点では同じスタンスではないでしょうか。
　釧路市として、くしろせんもん学校で学ぶ子ども達の行く末、支援、協力について今まで聞いたことが無いので、それをお聞かせください。

【市長】
　緑ケ岡学園さんがおこなっていた時も定員の半分程度になり、結果その分の赤字が出て募集停止となりました。
　それを行政で引き継いだのは、あまりケースがありません。
　ただの赤字補填であれば、やるべきではないと思います。
　今後のことを考えて、このまま短大でいくと人口減少や子どもの数の減少で赤字が膨らむ可能性がありますが、４年制学部にすることにより、学部にもよりますが、今の栄養科を生かしたかたちで、食産業や幼児教育も違う課程やグレードアップした課程を加えることにより、若者が外から来る可能性があります。
　現に、釧路公立大学は３００人の定員ですが、受験ではその１０倍応募があります。釧路は若者から人気だと私は思います。皆さんもそれをご存じだと思います。
　そういったメリットを生かして短大を４年制学部にし、我々の弱いところである理系の要素も入れるなど、将来的な夢を描きながら短大を公立化しました。
　短大である期間は赤字の支出がありますが、そういったことを踏まえても、これからの未来に若者が来てくれる。また産業が活性化する。そういったメリットを見出していきたい。地元に経済効果を生んでいきたいと考えています。

【総合政策部長】
　公立の短期大学ですから、地方交付税措置もあります。国から措置されますが、それを踏まえたうえでも短大部門だけでは、計算上赤字というような状況です。
　先ほど、市長から説明があったとおり４年制大学への発展も含め、なるべく公立大学として収支が良くなるような取り組みも、長期的な観点では必要と考えているところです。

【参加者Ｂ】

くしろせんもん学校、いわゆる専門学校への支援についてお答えいただいておりません。その点については、市は何かしらのお考えがありますか。

【市長】

今、公には言えないですが、来年で検討させていただいております。

短大を公立化することで、影響を受けてしまうということは本意ではない。しっかりできる対策をおこなっていきたいと思います。

【参加者Ｃ】

湿原は釧路にとって大切な場所であり存続してほしいが、太陽光発電施設建設を規制することに反対です。

原子力ごみ問題など、いろいろな問題があります。それを踏まえると太陽光発電施設建設を進めるべき。湿原存続に反対したい。

【市長】

ゼロカーボンの推進、再生可能エネルギーの導入自体は賛成です。

釧路は日照時間が長く、湿原周辺は土地も安価で平坦なため事業を始めたい業者がおり、そのうち一部の業者が手続きを怠り、事業を進めてきたところが問題としてありました。

自然を守り、地域と一体となって進めていただける事業者であれば良いです。

太陽光条例ができた後も、許可はしています。

湿原周辺を守る。それを何故打ち出したかというと、湿原や自然を守りたいという思いでラムサール条約湿地に登録して、国立公園にしてきた市民の皆さん、先輩方がいたからこそ、その思いを継いでいきたいと考えたからです。

国は、２０３０年までに太陽光発電について従来想定の電源比・設備容量を２倍以上に引き上げることを目指していますが、湿原周辺が、太陽光発電施設で埋まったとしても全然足りません。

一方で市民にとっては、この地域の電気料金が安くなるわけでもなく、都会の電力需要に我々の土地が、誇りが蔑ろにされるような感覚があったと思います。

ベースロード電源ではなく変動する電源であるということも、課題として感じています。全ての太陽光発電施設を反対するというわけではありません。

現在も市内では１２万キロワット以上の規模の発電施設があり、他の町と比べものにならないほど貢献しています。

原発については、我々だけの問題ではありません。

地域の課題となっている太陽光発電施設を、しっかりと対応したいとの思い

で取り組んでいます。

【参加者Ｃ】
　市長は業者をこれ以上入れない、そういう方向でいるのか。

【市長】
　しっかりと話し合ってくれる業者、太陽光条例を守り、適切な場所での事業や自然環境の調査などしっかりおこなってくれる業者は入れています。

【参加者Ｂ】
　防災会議では大きな施設の代表者の方が入りながら、協議をされています。防災士の仲間や民間レベル、ボランティアリーダーレベルでいろいろな思いを持って活動されている団体があります。
　そういう団体の防災減災に対する広域的な連携も必要と思っており、年１回でも市でそのような場を作っていただくと、意見交換や防災や避難所マニュアルなど、市民視点からより良いものも作っていけると思います。

【市長】
　是非やりたいです。各団体を一緒に集めてみます。

【総務部長】
　防災会議のメンバーの方々、組織の方々の意見を聞いた中でこれまで進めてまいりました。女性の意見や、各団体に入っていない団体等からも意見を聞いておりましたので、検討したいと思います。後日回答いたします。

【参加者Ａ】
　義務教育学校の名称ですが、１校だけ大楽毛学園となっているのでしょうか。学園と名が付くと、私立や特殊な事をおこなうのか思ってしまうイメージがある。学園と付けた意味合いがわからない。
　まなびの多様化学校の件について、お子さんが通っている方が、中学生なので自立させ自分で通学させたいと考えているそうですが、交通機関の関係で家族が自家用車で通学させなければならないです。交通機関の改善はできないのでしょうか。

【学校教育部長】
　義務教育学校の名称については、地域の皆さんや学校関係者等でつくる協議

会があります。協議会の中で３年をかけて話し合いをおこない、決定した名称等となります。
　学びの多様化学校については、現在２２名の生徒がおりますが、ほとんどの生徒は自家用車による送迎で通学しております。
　バス通学に関しては、他の学校と重ならないように時間を遅らせて、授業開始時間を決め生徒に配慮しており、そのようなことから、バス時間と合わないこともあると思っております。
　学校では、定期的に生徒や保護者と面談をおこなっておりますので、その場でも相談を受けます。授業開始時間を今から変更することは難しいと思いますが、細かい相談も学校と直接していただけると、ありがたいと思っております。今日の話も、私のほうから学校へお伝えしたいと思います。
　まずは、生徒が学校へ通っていただくことを第一に考えておりますので、どうぞよろしくご理解願います。

【参加者Ｄ】
　私は、自分のできる範囲で釧路を盛り上げたいと思い、教育の改革に取り組んでいるところです。自分のような人は、潜在的に若者の中にいるのではないかと思います。市政に関わり一緒に何ができるか、市と肩を組んで一緒にできる場所があるのかはわかりませんし、用意されているのかもわからなく、今日、初めて市政懇談会に参加しました。そのような場があるのであれば間口を広げて、無いのであれば作っていただけるとうれしいです。

【市長】
　市の幼稚園連合会の皆さん役員の皆さんは、年に１度程度来てくださり、意見交換や要望をいただいております。私からも、現状等をお聞きしたりしております。

【参加者Ｄ】
　若い世代が、行政と少し壁があるような感じがある。

【市長】
　この市政懇談会もそうですし、市長へのポスト、秘書課へ連絡をしていただければ、私と直接お話することも可能です。
　こども保健部の担当職員と話すことも可能です。
　職員は、壁をつくらないようしています。話し合いの場をつくりたいと、要望をいただければ時間をとります。

【参加者Ｂ】

成年後見制度の改正でも釧路市の場合は、釧路市権利擁護成年後見センターへ多くを委託し、担ってもらっています。

社会福祉法の改正では、身寄りのない高齢者の保障等をするとなっているが、報道等をみると、それは社会福祉協議会の義務として展開していこうと厚生労働者はしていると聞いております。

今の福祉協議会をみますと、人材的にも厳しく、対応できる人材の養成が必要と考えます。そういった人間はいないとできない事業です。制度があって、何かを提供する場を提供すれば良いものではない。人材の育成をしなくてはいけないと思いますが、市長の思いをお聞かせください。

【市長】

そのとおりだと思います

人を育て、地域に定着し地域貢献してくれる人材を育てていきたい。市役所も他の職種の職場と連携をとれるようなことをしていきたい。

人材育成ではｅ－ラーニングなども評価しておりますが、自分で学べる、仕事の中で研修をおこなう体制をつくり、そのようなことが疎かにならないよう、予算などに反映させていきたいと思っております。

【参加者Ｅ】

市長肝煎りのマーケティング戦略室が取り組んでいるプロジェクトについて、本当に若い世代が、まちづくりに関心を持って取り組める素晴らしい取り組みだと思います。是非、市長の口からマーケティング戦略室の取り組みを説明いただきたい。

【市長】

マーケティング戦略室を昨年立ち上げ、ふるさと納税や釧路市のイメージを決めブランド化していく、くしろブランディングプロジェクトに取り組んでおります。昨年度末から無作為抽出で選ばさせていただいた市民の方々に、釧路市のこれから大切にしていくイメージをまとめさせていただきました。

これからそれらを発信して、最初は皆さんが使えるロゴから打ち出していきます。

【参加者Ａ】

北陽高校移転で、場所を考えると釧路管内から通学している生徒がいます。東釧路駅から歩いて通学できるので便利だと思うが、移転した場合には更にバス

を利用しなければならない。生徒募集等の問題が発生しないのか。

【学校教育部長】
　北陽高校の方が通学の利便性が良いとのお話と思います。
　商業高校も生徒が通学しています。通学する生徒からは、バスの利便性が良いと聞いています。
　地域の人口割合を見ても、これから入学される子供の数を見ても、西部地区が多い状況となっております。
　今すぐに移転すると、現在通学している生徒が大変になると思いますが、令和１３年度開校なので、皆さんに移転時期を周知したうえで入学していただければと考えております。バスの件については、これから検討していきたいと思います。